

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年 1月29日

| | |
|-----------------------------|--|
| 協議会名: | 夕張市地域公共交通協議会 |
| 評価対象事業名: | 平成29年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | <p>夕張市は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、東西約25キロ、南北約35キロ、面積約760平方キロメートル、人口約8,400名の街であり、面積の約9割を森林が占めている。</p> <p>夕張市内を運行する路線バスは、当市の人口減少を主因と思われる利用者数減、それとあいつての運行事業者の乗務員数減もあり、運行路線数、運行本数の減少が続き、各路線とも採算は厳しい状況である。</p> <p>当市は、産炭を主要産業として発展した経緯等から、川筋に存在した各坑口を中心とした集落形成が特徴であり、それらを結ぶ路線バスは、「夕張市まちづくりマスタープラン」に都市骨格軸として位置づけた南北軸(紅葉山地区～本町地区)を幹として、南北軸上にない他の地区(郊外地区)とを結ぶ路線が枝となる体系となっている。</p> <p>しかしながら、特に南北軸と郊外地区を結ぶフィーダー一部については、路線バスの減便による利便性低下もあり、清水沢～南部間においてデマンド交通の実証運行を行い、地域住民の移動手段確保の検証を行ってきた。その結果、主として自家用車を自ら運転できない高齢者を中心とした一定の利用があったことから、同区間におけるデマンド交通本格運行を行い、生活利便性の維持を図ることで地域のニーズに応える。</p> |